



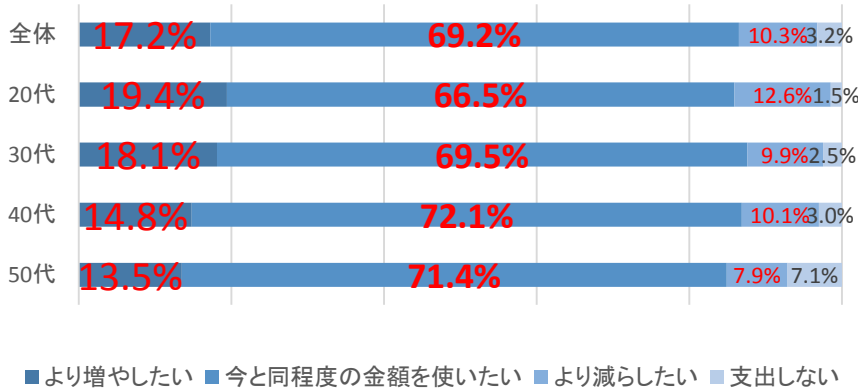
生活に関する調査レポート2015 第6回 ～消費意欲について(美容メンテナンス編)～

20～50代の女性1177名に調査した「生活に関する調査レポート2015」。第3回からは「消費意欲」について項目別に調査結果を発表しています。今回はファッション・コスメグッズへの消費意欲についてお届けしましたが、今回は女性たちが今現在、ヘアサロンやエステ、ネイルサロンなど「美容メンテナンス」全般についての消費をどう考えているかの調査結果をお届けします。

調査方法：インターネットによるアンケート、追加メール取材
調査対象：小学館の女性誌を読んだことのある全国の20～50代の女性1177名

Q下記の項目についての消費意欲を教えてください。

ヘアサロンへ行く



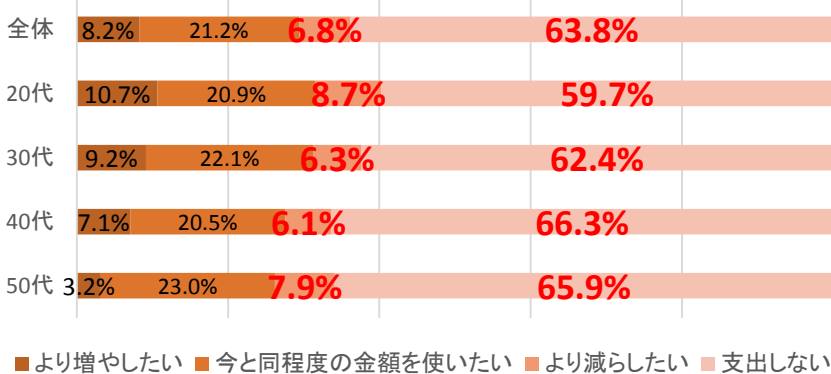
全世代変わらず消費意欲が高いヘアサロン。ネイルはセルフの波に押され中

全体だとなんと86.4%の女性が、「より増やしたい」「今と同程度の金額を使いたい」と答えたのが「ヘアサロンへ行く」。

ヘアサロンブームはひと段落、と思いきや定期的にヘアサロンへ通って、プロの手でヘアスタイルをメンテナンスしてもらうことは、もはや「最低限の身だしなみ」と意識されていると言っても過言ではなさそうです。

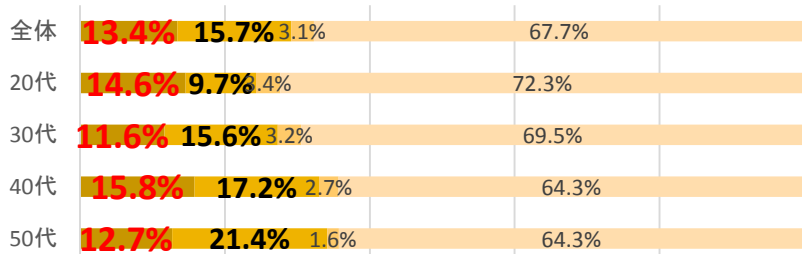
一方で「より減らしたい」「支出しない」と回答した人が全体で70.6%もいた「ネイルサロンへ行く」。こちらについてさらに調査したところ、ネイルに興味がないのではなく「セルフネイル」派が急増中していることが判明。手軽に自宅でするジェルネイルキットなど、市販のセルフネイルグッズの充実と、ハンドクラフトブームに乗って、趣味を兼ねてセルフネイルを楽しむ人が多いようです。

ネイルサロンへ行く



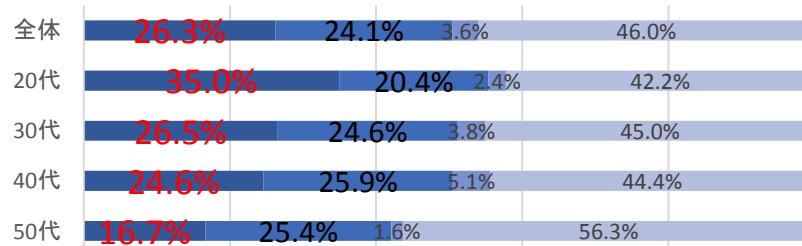


歯を矯正する



■より増やしたい ■今と同程度の金額を使いたい ■より減らしたい ■支出しない

歯を白くする



■より増やしたい ■今と同程度の金額を使いたい ■より減らしたい ■支出しない

いくつになっても気になる歯並び

もともとの歯並びによって、必要と感じる度合いがまったく変わってくる「歯の矯正」。「より減らしたい」と考える人は全体でも3.1%しかいませんでした。一方、「より増やしたい」「今と同程度の金額を使いたい」と考える人の合計が一番多いのが50代の34.1%。子育てや仕事のペースが落ち着いたときに歯の矯正をしたくなったり、加齢とともにずれてきた歯並びを直したくなるのかもしれない。

ホワイトニングは「当たり前」の時代になりつつある

ヘアサロンについて「より増やしたい」と答えた人が多かった(全体の26.3%)のが「歯を白くする」。特に20代では35.0%と、若い世代になればなるほどその傾向は顕著に。「歯を白くする(ホワイトニング)」はこの10年ほどで価格もこなれ、「より増やしたい」「今と同程度の金額を使いたい」を合わせると、全体でも50.4%と半数を超える人が積極的に消費したいと考えています。

研究所まとめ

美容メンテナンスに関しては、財布の紐が固くなっても削れない項目であることが今回の調査でわかりました。ただ、ネイルサロン通いをやめてセルフネイルにしたり、ヘアサロンや歯のホワイトニングに関しても、安いところやクーポンサイトなどを利用しているという声も多く聞かれ、行為自体はやめないけれど、なるべく安く賢く済ませたいという考えも強くわることがわかりました。「歯並び(審美歯科)」「歯の白さ」など「歯」の美容メンテナンスに関しては、人前に入る仕事の人や美容に関心の高い人など、一部の人が熱心に行っていましたが、一気に一般的に変化。これは今後も加速していくとみられ、女性の身だしなみの必須条件になっていきそうです。

調査結果に関するお問い合わせ

株式会社小学館 女性インサイト研究所 担当:安念

TEL: 03-3230-9774 E-mail: pr-islab@shogakukan.co.jp

<http://www.insightlab.jp/>